

奈良・平城遷都 1300 年 & ハノイ建都 1000 年を祝して

奈良・ハノイ悠久の都を紡ぐ鳥羽美花型染展

2010 年 10 月 5 日～11 月 10 日：薬師寺にて

12 月 6 日～12 月 25 日：ハノイ文廟にて



奈良1300年の悠久の歴史のなかに、様々な国、人々、文化の交流がありました。中国、韓国との交流はよく知られていますが、ベトナムとの間にも古きつながりがあったことはあまり知られていません。「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」と奈良をしのんで詠んだ阿倍仲麻呂、その仲麻呂とベトナムとの関係にも浅からぬものがあります。遣唐使の一行として唐に渡った阿倍仲麻呂、36年の長安滞在の後、仲麻呂は日本に帰国しようとしたが、その船が難破し、たどり着いたのがベトナム中部の町でした。その後、仲麻呂は6年もの間、ハノイに総督として滞在することになります。数年前見つかったハノイのタンロン遺跡は現在も発掘が進められていますが、重層的で壮大であることからその規模は平城京に匹敵し、仲麻呂が滞在した都の遺跡ではないかともいわれています。また海のシルクロードとして栄えた中部のホイアンには、17世紀前半、日本人町が形成され、今でも往事の姿を色濃く残しているように、日本とベトナムには長く、深い繋がりがありました。

ハノイにベトナム最初の王朝が成立したのが1010年、2010年にはハノイ建都1000年を迎え、平城遷都1300年の年と重なり、不思議な巡りあわせを感じさせます。



文廟(2009. 8.22 若山和幸)

この2010年秋、平城遷都1300年、ハノイ建都1000年をお祝いし、奈良の薬師寺とハノイ文廟で「ハノイ・奈良 悠久の都を紡ぐ—鳥羽美花 型染展」を開催します。染色作家、鳥羽美花は、1990年代半ばから、近代化により大きく変化するベトナム、そのなかで消失してゆく懐かしい光景を追い求め、日本の至宝といえる「型染」で数々の大作を制作してきました。その一連の作品を集めた個展は日越外交関係設立30周年などを記念して、ハノイや古都フエの王宮でも開催され、多くのベトナムの人々にも親しまれ、新たな交流が生まれました。



フエ(震)(鳥羽美花作)

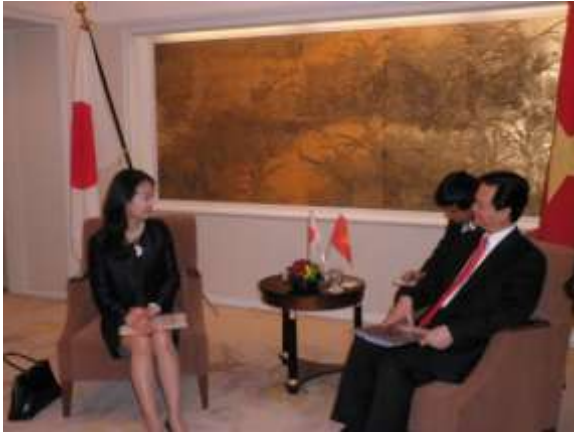
「型染」は、米作地帯日本ならではの米糊を利用した染色技法で、海を一度も渡ることなく日本の染色文化を彩ってきました。歴史は古く、正倉院宝物の中に型紙を使用した遺品があり、現存する糊防染による最古の遺品は春日大社の「義経の籠手(こて)」とされているように奈良と深く係わりがあります。

2010年の作品展では、ベトナムの変化する光景を描いた作品と共に、型染の故郷、奈良の都に立ち返り、奈良を描いた作品も展示します。

作品を生み出す豊饒な大地、その地で古よりの心の交流が後世に繋がるよう、ハノイでは、ベトナム最古の大学でもある文廟において、そして、奈良では1300年以上前の白鳳時代に建立された、薬師寺で展示することになっています。薬師寺大講堂の空間に、ベトナムの移りゆく風景が育んでくれた鳥羽美花の型染世界が広がります。

今日、日本とベトナムとの関係は経済面を中心に目覚ましい発展を遂げてきていますが、型染による風景世界の交流を通して、両国の文化や心の交流が一層深まることを祈っており、本事業が、越し方を振り返り、未来に向かって日越関係の展望を拓き、両国の友好関係の更なる発展に寄与することを願っています。2009年6月、ズン・ベトナム首相が訪日された際、鳥羽美花さんからズン首相にこの作品展の計画を説明しましたところ、ズン首相も大いに関心を示され、全面的な協力を約束してくださいました。皆様のご協力をお願いします。

奈良・ハノイ悠久の都を紡ぐ鳥羽美花型染展実行委員会



ズン首相に説明(2009年6月ズン首相訪日時)

—型染展概要—

日本展～奈良会場

展覧会名称：奈良・ハノイ悠久の都を紡ぐ～鳥羽美花型染展

—平城遷都1300年、ハノイ建都1000年を記念して

開催日時：2010年10月5日～11月10日

開催会場：奈良・薬師寺(大講堂、東院堂、聚賽館)

主 催：奈良県(平城遷都1300年記念事業)、産経新聞社

奈良・ハノイ悠久の都を紡ぐ鳥羽美花型染展実行委員会

後 援：平城遷都1300年記念事業協会、外務省、国土交通省、文化庁、観光庁

在日ベトナム大使館、在大阪ベトナム総領事館(以上予定)

開催内容：型染によるハノイ、奈良の風景作品を薬師寺大講堂、東院堂、
聚賽館に対峙させ、屏風形式で展示。

協 力：全日空

協 賛：協賛企業各社

ベトナム展～ハノイ会場

展覧会名称：ハノイ・奈良 悠久の都を紡ぐ～鳥羽美花型染展

—ハノイ建都1000年、平城遷都1300年を記念して

開催日時：2010年12月6日～12月25日

開催会場：文廟、ベトナム国立美術博物館

主 催：文廟、ベトナム国立美術博物館

後 援：ハノイ人民委員会、ベトナム文化情報省、ベトナム外務省
在越日本国大使館、観光庁(以上予定)

開催内容: 型染によるハノイ、奈良の風景作品新作を文廟に数点展示
また同時期にこれまでの移りゆくベトナムを描いた作品を中心に約20点をベトナム国立美術博物館に屏風形式で展示

協 力: 全日空、日本ロジテム

協 賛: 国際交流基金、ベトナム進出企業各社(予定)

鳥羽美花: 染色作家。愛知県生まれ。京都市立芸術大学大学院修了

日本の伝統技法である型染めを駆使し、独特の新しい絵画世界を創出。2003年に「京都市芸術新人賞」、「都市文化奨励賞」、他これまでに19の賞を受けている。

1994年以降は訪越を契機にこれまでの花、樹などモチーフにした装飾的な作風から一変し、ベトナム各地の移ろいゆく風景をテーマとしたスケールの大きな作品を発表。2001年に、描き続けた作品を一堂に集めた展覧会をハノイで開催。日越外交関係樹立30年を迎えた03年には、記念展として代表作26点で両国を巡回。05年には、世界遺産でもあるフエの王宮「太和殿」で、作品展「古都に奏でる悠久の心—フエ」を開く。同年ベトナムから「文化功労章」として勲章を授与された。他にミャンマー、モロッコなどの作品も制作。2007年「刻の記憶—鳥羽美花展」古川美術館、「遠い視線—回帰する風景、鳥羽美花展」(銀座ポラミュージアムアネックスギャラリー)、選抜奨励展(東郷青児美術館)等、08年には初めて日本の風景を描いた作品が、日本橋三井タワー(東京都中央区)に常設展示された。現在京都精華大学芸術学部准教授

